



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより



令和5年度 第8号
令和5年 12月1日

豊かな体験と基礎・基本の充実を目指して

校長 水野 裕司

昨日、2年生が永山名店街と諏訪商店街でお仕事の体験をしてきました。商品に値札をつけていたグループでは、「これを見たお客さんは、どんなきもちになるかな。」というお店の方の問いかけに、「まっすぐに貼らないといやな気持ちになるかもしれない。」と斜めに貼ってしまった値札を丁寧に貼り直す姿が見られました。地域の人役に立ちたいという子供たちの思いが伝わってくる素敵な体験となりました。実は、この体験に出発する直前は、お店でお仕事を体験できることでウキウキを通り過ぎ、浮かれた雰囲気になっていました。学校のピロティーで担任が「なんのために体験に行くのか」「遊びに行くのではないこと」「お仕事をしているところにお邪魔して体験させていただくこと」「今年の2年生の態度で来年はできなくなるかもしれないこと」などを、確認していました。厳しい指導（教員は、必要に応じて、意図的に行っています。）ではありましたが、子どもたちは、体験の目的を思い出し気持ちを引きしめることができ、結果として充実感のある楽しい活動をする事ができました。

さて、瓜生小では総合的な学習の時間に、環境を柱に学習を進めています。3年生と4年生は、身近な自然に親しみ自然環境に関心や愛着をもつこと、5年生と6年生は「環境問題」に関心をもち詳しく調べ、自分のこととして捉えることを目標に学習を進めています。その一環として5・6年生が、「エコプロ2023」に参加してきます。環境問題を解決するための企業の取り組みや最先端の技術を見学します。

今回の見学を通して、環境問題への関心をさらに高めるとともに、「大人になったら、こんなすごい技術を開発する仕事をしてみたい。」など、自分の将来について考える機会に

もしてきたいと考えています。ちなみに、日本は理科の学力は高いが、理系の仕事をしたと思う子供の割合は低い傾向にあるそうです。先日、6年生の卒業文集の原稿を読ませていただきました。その中で、環境問題を解決するために、しっかり勉強して大学の教授になりたいということを書いている児童がいました。この見学が、勉強したことを世の中に役立つものをつくることに生かしたいという「大きな夢を育む」きっかけになったら、「生きる幸せを学ぶ」ことにもつながるのではないかと考えています。

11月に、東京ベーシック・ドリルの診断シート(算数)を2年生以上で実施しました。この診断シートは、毎年、前学年の3月から、7月、11月と3回取り組んでいます。そのため、問題は、前学年の学習内容に関するものです。どの学年も3月から7月にかけては、正答率が少し下がったり、ほとんど変わらなかつたりしています。これは、新しい学年の学習に取り組む中で、前の学年の内容を忘れてしまうからではないかと考えています。一方、7月から11月にかけては、ご家庭のご協力や各学級での取り組みなどにより、正答率を向上させることができました。算数は、これまでに学んだことを生かして、新しい課題を解決する学習です。学んだことを使いこなすことができるよう、今後も指導をしていきます。(%)

	2年	3年	4年	5年	6年
3月	65.3	65.2	68.4	71.3	59.8
7月	65.7	63.3	61.5	69.4	63.8
12月	86.5	67.0	71.5	79.2	67.3

令和5年も残すところ一か月となりました。子供たちの力を着実に伸ばせるよう、一日一日の学習、一つ一つの行事を大切にして教育活動を進めてまいります。